

令和5年度 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック

活動地域：茨城県 県央・県北15市町村

水戸市、日立市、ひたちなか市、笠間市、那珂市、小美玉市、常陸太田市、北茨城市、常陸大宮市、高萩市、茨城町、城里町、大洗町、東海村

活動におけるテーマ

『新しい原風景をこの街に ホームタウンの未来ダイアログ』

本事業への関わり：1年目

活動団体と地域の紹介

株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホックは、茨城県内15市町村をホームタウン(本拠地)とし、これらホームタウンの自治体、個人や企業に株主として支えていただいている、地域に密着した日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)に加盟するプロサッカークラブです。

プロサッカーチーム『水戸ホーリーホック』の運営を中心に、サッカー事業他各種興業の企画、実施を手掛けています。「新しい原風景をこの街に」をブランドプロミスとし、「夢と感動と一体感の共有に向けて、地域に根ざし、地域と歩み、地域に貢献し、地域とにとも発展します。」をビジョンに掲げています。

茨城県は農業が盛んである一方で、農業従事者の高齢化が進み、耕作放棄地も年々増えてきています。そこで、我々は2021年より「GRASS ROOTS FARM」を立ち上げ、地域課題である「農業」に自ら携わり、約1,000㎡の畑からスタートしました。

【現状と課題】

昨年度から「ホームタウンの未来ダイアログ」を開催し、地域に密着し課題解決や活性化に努めている水戸ホーリーホックと、同様に地域に関わるキーパーソンが「未来の子供たちにどのような地域を残すべきか」を考えるための対話の場にて、主な課題を洗い出した。

- ・人口減少・少子高齢化の影響により、地域コミュニティの弱体化・世代間の繋がり希薄化が進み、地域内の「各種役割」を維持することが困難である。
- ・一次産業の衰退により、地域内の経済循環が弱体化している。これにより雇用の受け皿・特産品をはじめとした観光資源が減少している。同時に、里山・海岸線の環境が悪化している。



選手たちも農作業に協力



サポーターと共に植付けや収穫作業



スタジアムでワークショップを開催

活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

- ・地域コミュニティの弱体化・世代間の繋がりの希薄化が進み、地域内の「各種役割」を維持することが困難
- ・一次産業の衰退により、地域内の経済循環が弱体化している。これにより雇用の受け皿・特産品をはじめとした観光資源が減少している。同時に、里山・海岸線の環境が悪化している。

地域の課題が解決された状態

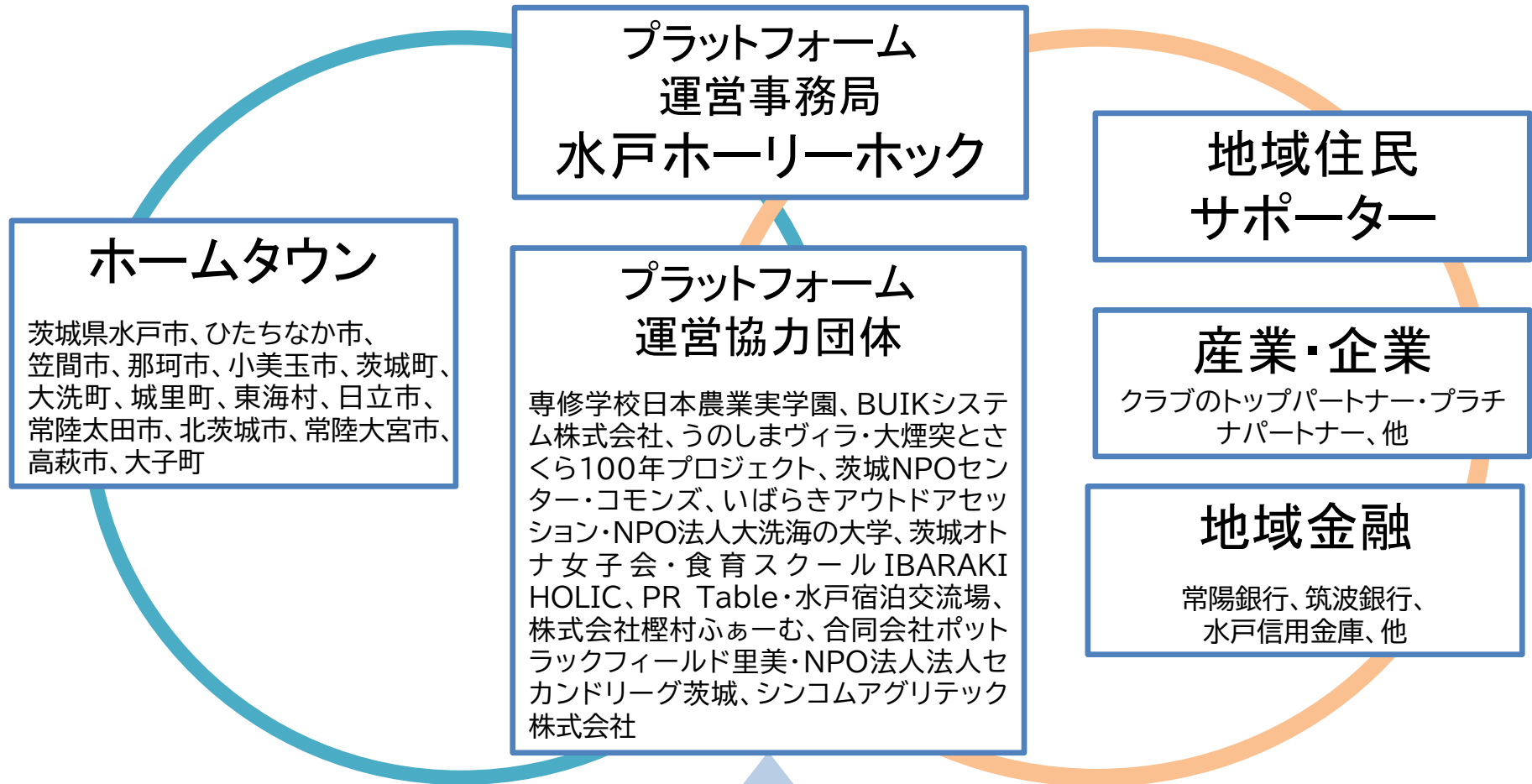
- ・各ホームタウンと水戸ホーリーホックが定期的に対話の機会を持ち、新たな「地域課題」が発生していないか、課題解決型ビジネスが順調であるかなどのヒアリングを進めていく。
- ・水戸ホーリーホックが新たな課題に対する、課題解決型ビジネスの「芽～アイデア」を企業やサポーターとブレストする。
- ・これらのアイデアを具体化できる仕組みをホームタウンや地域金融機関、キーとなる企業と打ち合わせを重ね、課題解決プラットフォームを作っていく。

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

すべての人々が、日々「地域の持続可能性：地域版SDGs」を意識し、「向かうべき方向性」「やるべきこと」に対峙、地域課題の解決に資する様々な具体の取組「ローカルSDGs事業」という新しいチャレンジを生み出していく。そして、対峙した「課題」に対する「解決策の見出し方」に困ったときに、地域のプラットフォームである「クラブをはじめとして“プロスポーツクラブ”に相談することができる。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



足りない資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む
より多くのサポーター、産業・企業、地域外金融を巻き込み。
茨城県は地上波のローカルメディアが無く、地域情報を発信するメディアが少ない
地域との人と直接顔を合わせることができる「場」づくり

年間スケジュール

